

第1回 伊勢便教会



伊勢市立厚生中学校
平成27年8月23日（日）

第1回 伊勢便教会

平成27年8月23日（日）

8月23日（日）、三重県伊勢市立厚生中学校にて第1回伊勢便教会を開催させていただきました。今年3月、修養団伊勢青少年研修センター・元道場長の中山靖雄先生がお亡くなりになりました。多くの方々が葬儀に来られていました。

「想う」「祈る」・・・見えないところで、中山先生がたくさん動いてくださっていたことを知りました。伊勢を愛すること、三重を愛すること、日本を愛すること・・・「愛すること」そして「誇りをもつこと」とはどういうことなのかを教えていただいたように思います。

それから数日、今の自分は何かに誇りを持って生きているのだろうか、毎日を過ごしているのだろうかと自問自答する日々でした。そして三月末、東京で、また六月には京都で行われた「鍵山教師塾」に参加させていただき、伊勢でも便教会をさせていただくことを決意致しました。

【開催するにあたり】

便教会を開催するにあたり本当に多くの方々にサポートしていただきました。会場を提供くださった伊勢市立厚生中学校の関係の方々、掃除道具を貸していただいたり、お昼のお弁当の手配、準備、後方付け等見えないところで支えていただきました三重掃除に学ぶ会の皆様、道具などを分けてくださった遠方の掃除に学ぶ会の皆様。そして、埼玉、東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡をはじめ遠方からご参加いただいた先生方や掃除に学ぶ会の皆様、そして高知での講演の後、最終便で伊勢にお越しいただいた鍵山秀三郎相談役や兵庫から夜駆けつけてくださった白鳥宏明様、そして三重県内の先生方や教師を目指す学生、総勢77名のご参加をいただきました。誠にありがとうございます。

今回、初めてこのような会を主催させていただくことになりました。私たちのテーマは「準備、片付けを含めできる限りのことはすべて教師で行うようにしよう」でした。しかし、実際はいろんな方に、様々なことをしていただければなりませんでした。そのような方々は決して自分たちがしたとは言わず、表に出られず、いつも陰で支えてくださいました。時にはぶつかることもありましたが、それはみなさん「想い」があったからだだと思います。その「想い」が一つになればすごい力になるのだということも今回の便教会を通じて学ばせていただきました。

「恩返し」をするとよく言われます。私も今回、この「伊勢便教会」を通して、生まれ育ったこの伊勢という地に少しでも恩返しをしていきたいと思い始めさせていただきました。しかし、「恩返し」に対して「恩送り」という生き方があるということも知りました。鍵山相談役が長年されてきたことを通して蓄積された「生き方」に学び、これからの私たちの「生き方」「行き方」を示してくれるような温かい方とも出逢わせていただきました。ありがとうございます。

【トイレ掃除を通して】

以前、大谷先生が主催されておられる大阪便教会に参加させていただいた際に、以下の3つのことを大事にして掃除をしましょうと言われました。

1. 無言で行う → 自分自身と向き合う
2. 周りと比較しない → 相対差でなく絶対差
3. 両手を使う（特に支える方の手を大切に使う） → 覚悟を決める

今回、初めてトイレ掃除をされる方も多数おみえでしたので、リーダー・サブリーダーの方々にはこの3つを徹底しましょうとリーダーミーティングでお伝えさせていただきました。



始まる前、イエローハットの阿部さんと大谷先生が学校のトイレを一通り回ってくださっていました。基本的にはスポンジとサンドメッシュを使ってのトイレ掃除ですが、今回お借りさせていただいた学校は比較的新しく、便器も新しい便器だったため、サンドメッシュを使わず、ナイロンたわしの方がいいですよ（しかも新しいのではなく、少し使用したものが良い）とアドバイスをいただきました。そのような“準備”“工夫”も今後続けていくにあたり、大切なことだと学ばせていただきました。

6班に分かれてのトイレ掃除実習でしたが、どの班も最初の空気・雰囲気と終わってからの空気・雰囲気を感じ、“before”と“after”を実感されていました。一見きれいなトイレでも、見えない部分に目を向けるとほこりが溜まっていたり、汚れていたりしました。そのような部分にさっと目がいき、取り組まれている方々に感動いたしました。それは、きっと普段の積み重ねがあるからだと思います。普段、実践をされておられるからこそ、そのような見えない“気”を感じ、そこに目がいくのだと思います。このことを学校現場に置き換えたとき、一見問題ないと思えるような生徒に目を向けること、接することの大切さを学ばせていただきました。そして、いつも目の前の生徒が“普段”の姿をしているか、変わったことはないかと気にかけておくことは非常に大切のように感じました。

各班を見回って、玄関前に降りてくると、鍵山相談役と阿部さんは生徒の下駄箱を見られ、スリッパをきちんと整頓されておられました。そして、すべてのスリッパがきちんとした状態はとても清々しく気持ちのよいものだと思います。改めて実践を積み重ねておられるお二方から、「掃除を学ぶ」のではなく、「掃除に学ぶ」「掃除を通して学ぶ」とはどういうことかを学ばせていただきました。





【トイレ掃除を終えて】

体験発表を12名の方にしていただきました。

「とても新鮮だった」「新しい自分に出逢えた」「鍵山相談役にお会いできて良かった」等々、初めての体験を終えた方々の新鮮な生の声をお聞きすることができました。その中で、息子様とともに参加されたお母様の発表がありました。ご家族で参加していただいた方もお見えでした。昔の恩師と生徒という関係でお掃除された方々もお見えでした。

「繋がり」「共有」「絆」「受け継ぐ」

大袈裟かもしれませんが、そのようなことを体験発表を通して感じました。

そして、最後に鍵山相談役よりお話をいただきました。

フランスのラ・ロシュフーコーさんの言葉を例に、小さなことを大切にすることが、小さなことを大切にできる心がけこそが、最終的に大きなことを大切にすることに繋がるということでした。自分を大切にすることで、はじめて周りを大切にできる。自分の周りをきれいにするのが、世界の平和につながっていく。今日の前にあるもの（こと）を大切にできなければ、絶対にそれ以上のことは大切にできない。だからこそ、「今」をどう生きるかが大切なのだと思います。点が繋がって線ができます。誰も出来上がった「線」に目を向けがちですが、そこには今まで積み重ねていった「点」がある。その一つひとつの「点」を大切にできる心を育てていきたいと思います。

この便教会も便教会に参加しただけでは何も変わりません。便教会に参加し、いろんな出逢いを経験する。様々な体験をする。そうすることで、きっと新しい自分自身に出逢うはずです。中山先生のお言葉をおかりすれば

「出逢いを通して自分と出逢う」

なのだと思います。新しい自分に出逢い、自分自身で実践する。そういう波を是非大きくしていくことで、うねりが起き、よい波となり広がり、そして深まっていくのではないかと思います。

今回、大谷先生より役割をいただき、便教会をさせていただきました。本当にすべてが素晴らしい学びであり、何にも代えがたい貴重な経験をさせていただきました。

「一人の百歩より百人の一步」

私は一步を踏み出そうと言っただけです。それだけなのに、本当に多くの方々より有形無形のサポートをいただきました。「頑張れよ」というメッセージをいろんな形で受け取ることができました。地位や名誉、お金だけでは得られないようなドラマがたくさんありました。すべてのことに、そしてすべての方に心より「ありがとう」ございます。



《参加者の感想》

◆ 本日は、第一回伊勢便教会に参加させて頂き、ありがとうございます。

お仕事をしながら、あんなに大勢の参加者が集まったの行事の準備はさぞかし大変だったかと思えます。本当にありがとうございます。

恥ずかしながら、わたしは今日鍵山先生にお会いするまで、鍵山先生のお顔を存じ上げませんでした。イエローハットの創始者がみえる貴重な機会であることは母から聞いていたのですが、特に調べることもなく当日になりました。

そして今日、鍵山先生にお会いしてお顔を拝見すると菩薩様のような表情で穏やかとかを超えたなんとも優しく柔らかい雰囲気と表情をされていて驚きました。失礼かもしれませんが、本当に菩薩様みたいって思いました。

そして開会式の時に見せて頂いた「TR」で、鍵山先生が掃除を初めて十年が経った頃に社員が自主的に営業車の掃除を始めたと聞いて愕然としました。十年もの間一人で続けられたことが信じられなかった感動というか感激というか鳥肌がたつて涙が出そうになりました。

そしてすっかり鍵山先生のファンにな

りました(笑)

トイレの神様の話を大学生のとき母から聞き、意識はしていたものの、自分の家以外のトイレ掃除をこんなにしつかりしも男子トイレを掃除するのは初めての経験だったので、初め少しドキドキしていました。

でも、始まっていざ手を突っ込んでみるとすぐに慣れてあつという間に時間が過ぎて、掃除によって心が磨かれるということが少し分かった気がして嬉しかったです。

◆ 諸先輩方がなんの躊躇もなしに初めからゴシゴシされているのはすごい！！の一言でした。

このような機会を与えて頂けたこと、感謝申し上げます。

◆ 一昨日は、記念すべき第一回の伊勢便教会に参加させていただき、ありがとうございます。

受付時間前の三十分前にも関わらず、三重掃除に学ぶ会の方たちが席に座っておられました。道具もそろっていて、参加者をお迎えするだけという状態がすでに作られ、これが「準備」というものなんだと見本を見せていただきました。

その後、各地の尊敬する先生方が続々と来られましたが、一参加者として、見守り椅子に座って開始を待っている姿を見て、第一回にもかかわらず、安心して上野先生や西先生など三重の先生方に任されているのだと感じました。

サブリーダーを任せましたが、高野先生始め掃除の会の皆さん、渡辺さんに教えていただいたばかりで、その点ではお役にたてなかったかもしれませんが、十一名の皆さんがそれぞれの役割で臨機応変に動き、自分磨きに専念することができました。

校舎は5年目ということで新しくなったのですが、新しいトイレだからこそ最初に確認すること、気をつける点、工夫する点を高野先生から教えていただき、自分の勤務校は移転して一年ですので、参考になりました。

◆ 各班の実践発表や三重の先生方のお話を聞き、上野先生のこれまでのご活躍と後輩や同僚の先生が上野先生を信頼されていることが良く分かりました。

これから様々なことが起きてても、チーム三重で上野先生が先頭になって活動が続いていくと思います。

また参加させていただきたいですし、今回出逢った素敵な方たちとのご縁を大切に

にして、自分も勤務校で上野先生のような学びあえるチームを作りたいと強く感じました。

これからも陰ながら応援してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

◆ ここまで熱心にトイレと向き合って掃除したのは初めてだったので、無心に取り組む自分に驚きました。また、少し遠慮がちに掃除している自分に対して、リーダーの方が見本として、トイレの水がたまってある部分に何のためらいもなしに手を突っ込んで磨かれたのを目の前で見て、自分の中のトイレ掃除に対する抵抗感が一瞬でなくなつたのを覚えています。当たり前前に堂々と見本を示してあげること、見ている人にはこのような影響があるのだと感じました。それと同時に、トイレ掃除に熱心に取り組めない生徒の原因は自分にもあるのだということを痛感しました。今回学んだことを生かして、トイレ掃除でも見本となれるような教員を目指そうと思います。

ありがとうございます。

◆ 本日は厚生中学校をお借りさせていただき、学ばせていただきました。先生の母

校にての便教会に参加させていただけましたこと、大変ありがたく存じます。とてもきれいな校舎、とてもきれいなトイレ、

さほど掃除する場所はないのではないかと？などと考えておりました。

◆ しかしながら、いざお掃除を始めてみると、いろいろと目につくようになりました。たとえば壁は地味に汚れが見て取れました。

これは、なにより、目の前の壁を見ているはずが、見ていない、表面的には見ているが、本質を見ていないことに他ならないと思いました。

◆ 見ているようで、見ていない、見えていないような気になっているだけ・・・学校生活やクラブ活動などについても、同様に表面しか見ていないのではないかと感じました。

◆ そんな学びでした。

◆ また、多くの先生方、三重掃除に学ぶ会の方々とご一緒させていただけましたこと、ただ身を低くして実践あるのみを見直す素晴らしい機会となりました。

◆ 加えて、鍵山先生にもお会いすることができ、本当にありがたい一日となりました。ありがとうございます。

◆ 一昨日は大変お世話になりました。

あんな素晴らしい便教会を初めて体験しました。

◆ 私がここで「素晴らしい」と申し上げているのは、鍵山相談役を頂点として、さまざまな支援者が神様のような心を以って集結なされていた点です。

◆ 伊東から白鳥さんが、埼玉から村田先生が、そして九州からは米村さんと高橋先生までお見えになっていました。もちろん、大谷先生も。

◆ 逆風ほど支援者は増えるのかもしれない。

◆ これから伊勢便教会が三重の教育界、ひいては社会を変えらうねりの中心となるような気がします。

◆ そのために、上野先生、西先生、山本先生の三人が「鉄の結束」をつくることできればいいですね。

◆ 「三人いれば学校の再建も叶う」という旨のことを仰せになったのは、『修身教授録』の森信三先生です。

◆ 今回初参加の先生方も交えて、時に激論を交わしながらも、マイ・オリジナルの伊勢便教会をつくることに「狂」がつくくらい、愉しくのめり込んでいって欲しいです。

◆ 「狂（＝愉しみ）」がないと続かないように思います。例えばイチローが「野球狂」

であるように。高野修滋先生もそうだと思います。

それから、「頭の回転」に頼ることを辞めなければならぬと思います。

なぜなら、「どちらが得か。どちらが善か。どちらが合理的か。」というような物差しを振り回している限り、動きが著しく遅くなってしまうからです。

現場の司令塔には予期せぬ事態の情報が入り込んでくるので、その都度瞬時に判断しなければなりません。大事なものは合理性ではなく、素早さなのだと思います。

よって、頭ではなく、心や魂で動けるようになればいいのです。私もそうなるかと頑張っているつもりが……まだまだ磨き足りないようです（苦笑）。

最後に、「愛嬌」を大切にしなければ続かないように思います。

鍵山相談役がよく「お掃除には愛嬌が必要ですよ」と仰せになります。思い返せば、ご講演でも必ず冗談交じりにお話しされますね。

ねじり鉢巻きに腕まくり——はいいうなれば「短距離走」の走り方です。長く続きます。

ですから、初参加の先生方も交えて、ご飯なども食べながら、伊勢便教会への愛を

以って、色々浮かんでくるアイデアをどしどし採用してみればいかがでしょうか——

お疲れ様でした。

きっと人には言えないようなご苦労があったことと思います。本当にお疲れ様でした。

ミーティングでおっしゃっていた第一回目の感想および今後に向けてですが、私も福岡の高橋先生がおっしゃったことが効果的だと思います。

掃除に参加しようという人は、「自分自身がおかれている現状を変えた」とい、

「今の状況を苦しく感じている」「指導がうまくいかない」「教室に行きたくない」というものもあつたり、それほどまでではなくても、

「なんとなく同僚・上司・後輩とうまくいかない」「不安を感じる」とかもあるんじゃないでしょうか。

だとすれば、掃除を通して（掃除でなくてもいいのですが……）自分が幸せになる。だから、幸せな先生を間近に見たい

る生徒も幸せになる。

ということは、その先生にかかわった子供たちが将来に渡って幸せになる、ということにつながるということをおアピールすればいいのではないのでしょうか。

実際、掃除を通して実践されている方が多く、悩みを共有できるということも言えると思います。

だからといって、掃除をすれば解決策が降ってわいてくるものではないので、（頭で理解するということではなく）「実践」というフィルターを通すことで、見えなかったことに「気づく」ことが目標になるのではないかと思います。

大谷先生も仰いますが、便教会はそのきっかけだと思います。

また、便教会に来られている先生から刺激をいただいたり、横の広がりももてることも大きいのではないかと思います。

その点をアピールしながら、少しずつ広げていければいいのではないのでしょうか。もう一つは、自分の学校での仲間が二人になれば、心強いと思います。

二人になれば、そこから広がるスピードが変わるのではないかと思います。

◆ 家族で参加させていただけて、本当に幸せでした。

嫁が「私も行きたい」と言いました。娘達もやってみたいと。

あまりにも自然な展開に不自然さを感じてしまうくらい……。これを不思議と言うんでしょうか。

失礼ながら、鍵山先生が来られることも、もの凄いな人数であることも認識しておらず、行ってみてびっくり。

発足に関わったたくさんの人々のおもいを感じさせていただきました。

今、情勢は絶望的です。しかし、その中でこそ希望が見いだせる。そのことを強く感じさせていただけました。

皆様方から子供達に対して多大なるお気遣いを頂戴いたしました。

親だから出来ること、家族だから出来ること。

親だから出来るにくいこと。家族だから出来るにくいこと。

そんなことをふと、おもいながら便教会、掃除の力というものがじわっと身にしみました。

◆ 私は第一回伊勢勉強会へ参加するため、西松先生・松浦先生・高橋先生と四人ご一

緒に大阪を出発しました。その時はただただ楽しいばかりで、三人の先生と共々、大谷先生の事を話したり、鍵山先生の事を話したり色々で、先生たちの勉強会とはこんなに素晴らしいものなんだなとしみじみ感じながら伊勢へ向かいました。

私は第一回の伊勢の勉強会に参加できる事の喜びがとても大きくて、嬉しさのあまり嬉々とした顔で参りました。

伊勢に着き、修養団の宿舎に入り、大谷先生とお会いし、また多くの先生方とお会いしました。その中でも、ほんとに日本という国に対し、世界といえますか、多くの人たちに対して、先生としての義務をしっかりと持ってあり、またお掃除という事に対しての大きな大きな意義と意味をたくさん持っていらして、そこに存在し共有させて頂くだけでも感激でございました。

本当は言葉に出ないくらいに、皆さんの心ひとつひとつが伝わってくるんですね。修養団に着いた時も、笑顔で迎えて下さいました先生たちのお姿が、本当にしっかり懸命にあります。

それである程度集まった所で、つたやというお店で夕飯となりました。そこは、上野先生が子供の頃からお世話になったというお料理屋さんで、何がびっくりしたか

と言いますと、伊勢のおうどんですね。

私は何回か伊勢に参りまして伊勢のおうどんも頂いていまして、それが甘辛くておうどんも固くてというイメージだったんです。なんで皆さん美味しい美味しいと食べるんだろうと思ひ、お土産に買っても

誰も美味しいとは言わないのでこういうものかと思っていました。

しかしそのおうどんは、発祥の地で家一軒しかやっていませんというご主人のお言葉通り、そのおうどんは美味しく美味しくてたまりませんでしたね。私が一つ疑問だったのは、おうどんに乗っているチャーシューなんです。このチャーシューを煮た汁は何に使うだろうと思っ

たんです。おうどんも美味しい、チャーシューも美味しく何に使うのかと思っ

ていましたら、後に出てきたチャーハンです。このチャーハンに染み込ませて作ってあるなと思って、とても深い味わいを感じました。

おうどんというのは和であり、焼き豚は中華で、でもそこはとても温かい雰囲気です。先生たちの話す内容もあまりにも素晴らしく、食事でも美味しく先生たちの話面白く、胸が騒ぎましたね。

明日の第一回伊勢の勉強会は、どんなだ

ろうという期待と楽しい思いでそこを後にしました。

そして宿舎へ戻り、鍵山先生の到着を待たためミーティングみたいの話が始まりました。そこで何より驚いたのが、鍵山先生が時間がない中に、ぎりぎりの目一杯の予定の中で、この伊勢にいらっしやるという事を大谷先生からお聞きして、そのスケジュールの凄まじい事に頭が下がります。

白鳥先生とご一緒に到着されたお姿を見させて頂いた時、本当に胸が詰まる思いがしました。ほんとにあの年齢で、命を張って一生懸命にされているお姿に、涙が出てまいりました。

なぜ鍵山先生がこのように、命削って先生たちに対して伝授されている本物の人間の姿を、教えられている姿を通し、言葉を通し、やはり姿ですね。謙虚な姿、礼儀正しい姿、多くの言葉、鍵山先生の言動全てが多くの先生たちに伝わっていくという事が、尚一層今からもっともっと伝わっていくという事を深く感じました。

その時背中が可哀そうで、悲鳴をあげているのが分かるんですね。どうしようもなく辛かったです。でもそれ以上に、先生たちも私を感じられたように思われたのではないのでしょうか。

でもその心根、お姿を見られるからこそ、また皆さんがそこに大きい大きい魂の息吹を、先生たちおひとりおひとりが感じられたのではないのでしょうか。その日は、あまりの思いでなかなか寝つける事が出来ませんでした。

朝は五時頃起きまして、早朝のお参拝という事だったものですから、伊勢のお参りが出来ました。伊勢のお参りをさせて頂いた時、私は右に大谷先生、左に白鳥先生と三人でお参拝をさせて頂きました。

最初階段を上がる前に、ファーっと聞いたんですよね。そして階段を上り正面の所へ来た時、またファーっと聞くわけですね。三人がお参拝している間、開きっぱなしでなんて有難いんだろうと思っていましたら、大谷先生の心と白鳥先生の心が一つになったようにして、三人で合掌し快い参拝が出来ました。

方や先生たちのリーダーである大谷先生、方や鍵山先生の片腕である白鳥先生、両方の方を両脇に置いて何て幸せなお参拝だったかと思うと、ただただ御神様に感謝しかございませんでした。

そして朝食を済ませ、現場の学校へ向かいました。一生懸命上野先生が動かれ、上野先生の担任だった校長先生の居られる

学校へと向かわせて頂きました。

会が始まり、鍵山先生がこの集合の場所へ来られた時に、とても元気になっておられて、生き生きとしたお顔を向けられ、皆さんにご挨拶なされた時、一瞬顔を見させて頂きましたら、昨日が嘘のように晴々なさって、本物の先生に一生懸命なされるお顔になっておられました。

それを見た瞬間、良かった、良かった、お元気になられ良かったとほっと致しました。私自身、お掃除の繋がりからでなく、違う形で鍵山先生とご縁を頂いたものですから、鍵山先生とご縁を頂いて、一つ一つお掃除を理解し始めたんですね。

一番最初を思い出すと、沖縄で先生たちの勉強会へ参加させて頂いた時に私は目覚めたわけですね。

その時、先生たちの魂と先生たちのお掃除の姿、それと大谷先生の志みたいなのが移って、少しずつ少しずつお掃除という事に目覚めてきました。

今回のお掃除は、私は初めて便器を一人でお掃除出来たんですね。便器のお掃除をしながらふと思いました。一番最初お掃除に参加させて頂いた時に、伊東お掃除の会だったんですけど、その時は途中でダウンしてしまっって、鍵山先生が横になるよう

にとお伝えなされたものですから、私は三十分くらい横になって真面にお掃除出来たのは十分間くらいだったんです。

けど今回は、途中で足が痛くなり少しは休みましたけど、自分の心通りのお掃除が出来、良かった、皆の足を引っ張らなくて良かった、けどどちらかというと皆さんの足を引っ張っていたかもしれないです。でも私はどうしても伊勢のこの地で、先生たちと共に参加させて頂きました。

何か大きい教えを頂くのではないかな、何か魂の中に入ってくるんじゃないかな、という一心でお掃除をさせて頂きました。この喜びは一生涯残るのではないかと思っております。私にとつての第一回伊勢掃除会は、ただただ有難いばかりでございます。

そして上野先生の直向きな一生懸命の心で第一回が始まったので、きつと未永く続くと思います。この地は色んな意味で難しい所があるかもしれませんが、そういう事とかも乗り越え、伊勢の地というのがある事が出来ない日本で一番理のある大きいお宮だと思います。このお宮のある地に建つ学校もそうありますが、上野先生の恩心が共々に重なりあったら、尚一層、伊勢勉強会というのは永遠ではないでし

ようか。

鍵山先生のお心が、伊勢の神様と重なったような感じが致しました。

本当に本当に、感謝申し上げます。有難うございました。

今回、初めて参加させて頂きました。黙々と取り組んでいる最中は、日常生活の些細なことを一切考えずに居られました。(自分自身、驚きでした。)幾度となく繰り返している、「心が磨かれる」といった域に、いつか達することができるとかな、と感じました。

お掃除の過程で教えていただいた「床の水切り」のためにタオルを伸ばして排水口へ。「更なる水分ふき取り」のためにタオルを回す、という方法は想像以上に効果大で、ビックリしました。

鍵山先生がお掃除中に来て下さった際、「小さい事こそが大事なんですね。」と穏やかにおっしゃられたその一言に、大変感銘を受けました。

(妙に得心してしまいました。)
リーダーの方々、ひとつひとつ丁寧に、とても熱心に説明して下さったことに感謝しております。

今回は、全て準備していただいている所

にお邪魔させて頂きました。何に聞してもそうですが、自分自身が「していただいたこと」を「させて頂いただけ」ようになりたいと思います。

よしあしの

中を流れる

清水かな

伊勢の中山靖雄先生より教えて頂いたお言葉です。

葦(良し)と葦(悪し)をかけている句です。

便教会開催にあたり良い会だった、良かったなどありません。

ましてや参加人数の多い、少ないなど問題ではありません。全てを包み込んで流し続けることができれば気がつけば清水になつていくのかと、開催し続けること、参加し続けること、日常に落とし込み、自分が決めたことをし続けることで、いつの間にか感性が磨かれるのかも知れません。今回の伊勢で鍵山相談役から感じました。

